

Mémoire 2025

第69回 大阪杯(GI)



コースレコードで史上初の連覇 ベラジオオペラ

コースレコードの完勝で、史上初の連覇を達成した。

春の中距離王決定戦は、人気の拮抗した混戦模様となった。単勝4.8倍の1番人気は、前走の中山記念でコースレコード勝ちを収めるなど、ここまで6戦5勝のシックスペンス。5.1倍の2番人気が前年の覇者ベラジオオペラで、5.2倍の3番人気には香港ヴァーズ3着以来の実戦となる桜花賞馬ステレンボッシュが推された。

ゲートが開くと、ホウオウビスケッツがダッシュよく先頭に立って1周目の正面スタンド前を通過していく。ところが、出負けして最後方からとなったデシエルトが一気に上昇し、1コーナー過ぎに先頭を奪取。さらにペースを緩めることなく飛ばしていったデシエルトの逃げは、前半1,000^円が57秒5という速い流れとなった。離れた2番手にホウオウビスケッツ。その直後の3、4番手をシックスペンスとベラジオオペラが並ぶように追走した。

向正面の終わりでは優に5馬身以上開いていたデシエルトと後続との差は、勝負所でみるみる詰まって直線へ。先頭に立ったホウオウビスケッツに残り200^円で並びかけて交わしたのは、伸びを欠くシックスペンスを尻目に力強く抜け出したベラジオオペラだった。

横山和生騎手が「欲しいポジションが取れました」と振り返ったように、2番手から押し切った前年同様、先行してレースを進め抜け出したベラジオオペラ。最後に大外から追い込んできたロードデルレイの末脚も1馬身差で完封し、史上初の連覇を達成した瞬間、横山騎手の左手がスタンドへ向かって大きく上がった。1分56秒2は、従来の記録を1秒も更新する驚異的なコースレコードだった。

GI初制覇となった前年の優勝後は宝塚記念3着、天皇賞(秋)6着、有馬記念4着。あと一步の競馬が続いていたディフェンディングチャンピオンが、得意とする舞台、得意とする形で、鮮やかな横綱相撲を見せてくれた。

第69回大阪杯(GI)

4/6 阪神競馬場 2,000^円(芝・右) 晴・良 15頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	ベラジオオペラ	牡	5	58	横山 和生	上村 洋行	R1:56.2	②	④④③③
2	ロードデルレイ	牡	5	58	西村 淳也	中内田充正	1	④	⑧⑨⑧⑧
3	ヨーホーレイク	牡	7	58	岩田 望来	友道 康夫	1	⑧	⑭⑭⑭⑭
4	エコロヴァルツ	牡	4	58	M.デムーロ	牧浦 充徳	ハナ	⑩	⑧⑧⑩⑩
5	ホウオウビスケッツ	牡	5	58	岩田 康誠	奥村 武	クビ	⑤	②②②②

ベラジオオペラ
栄光の蹄跡

5

ロードカナロア 118 L
ベラジオオペラ
エアルーティーン(ハービンジャー)
2020.4.7 生 千歳・社台ファーム



牡5
鹿
58
横山 和生
林田 祥来氏
上村 洋行(栗東)

2024.12.22 中山
有馬記念GI
15ト3人 4(118)
58^{kg}。横山 和生
芝2500良 2:32.1

2024.10.27 東京
天皇賞(秋)GI
15ト4人 6(115)
58^{kg}。横山 和生
芝2000良 1:57.7

2024.6.23 京都
宝塚記念GI
13ト5人 3(116)
58^{kg}。横山 和生
芝2200重 2:12.4

※昨年のカラー版出馬表より抜粋